

かいごの大変さ

伊勢原市立高部屋小学校

五年 高木 来愛

私の家には、しょうがいのあるお母さんの弟がいます。名前は、大作といい、みんながらは、「だいちゃん」とよばれています。

大ちゃんは見えませんが、お話もできません。手を使うことも、歩くこともできません。だけど耳は、とてもよく聞こえるので、みんなの話や笑い声が聞こえると、

じつと声を聞き、声がる方へ体を向けてくれます。私が「大ちゃん」と声をかけると笑ってくれるので、私はとてもうれいのです。ただ、いいことばかりではなくて、おばあちゃんやお母さんが大ちゃんのめんどうをみるのはとても大変そうです。身長が一六〇cmの背もあり、移動させる時は二人で行わなければいけないし、着替えやお風呂も長い時間じつとしていられないから、何をするにも家族の姿をみていると、話せない大ちゃんのお持

ちを考えて、声をかけたり、歌をうたってあげたり、車に乗せてドライブへ行ったりと、どれもかんたんにできることではないことをみんなが大ちゃんのために何ができるかを考えて一生けんめいにめんどうもみている次女をみると、本当にすごいなあと思います。

だから、私はこの夏休みおばあちゃんやお母さんを助けるために、大ちゃんのめんどうをみよう！と思いき着替えやだっこのお手伝いをしています。お手伝いをして初めてかいごの

大変さを知り、これから先も私に出来ることを大ちゃんや家族のために協力していきたいと思えました。

私は、やさしい家族や大ちゃんが大好きです。

最後に大ちゃんがみんなと長と一緒にいられたとうれしいです。